



生物班

活動日時／週 1～3 回 18 : 00 まで

活動場所／生物室

参与／2 名

班員／15 名

3 年生 6 名 2 年生 6 名 1 年生 3 名

私たち生物班は現在、男女合わせて 15 名の班員が在籍しています。活動場所は生物室で、班員の都合に応じて活動日を決めています。

～活動について～

私たちは現在、イシクラゲの農業活用性についてを主なテーマとし研究を行っています。研究活動としては、イシクラゲを極限環境において窒素固定活性を計測することや、無栄養の土壤にイシクラゲをまいて植物を生育させることが主体です。また、校外活動としてイベントに参加したり、博物館に赴き研修を受けることもあります。特に夏休みなどの長期休暇中には、班員たちで計画して博物館に訪問します。2021 年度は、滋賀県で開催された近畿総合文化祭に参加しました。

～研究について～

研究を通じて、研究することの楽しさ、面白さを感じることが出来ます。ほとんどの班員は高校に入って初めて研究をするので、わからないことがあっても大丈夫です。

～これからについて～

今年度も引き続きイシクラゲの研究を進めるつもりです。一方、新年度に向けて新たな研究をする計画が進行中です。

班員の数が増えるほど、行える研究や実験の幅も広がるので、多くの新入生の入班を求めています。生物班は兼班者も大歓迎です。生物室で過ごした時間はあなたの心の支えとなるでしょう。生物好きな皆さん、生物を好きになる予定がある皆さんの入班をお待ちしています。

生物班

活動実績

令和5年度

- 第67回滋賀県学生科学賞県展 佳作
「イシクラゲの極限環境における窒素固定活性について」
- 第77回滋賀県児童生徒科学研究発表大会
滋賀県科学教育振興委員会委員長賞
「イシクラゲの極限環境における窒素固定活性について」
- 近畿地区高等学校文化連盟自然科学部合同発表会 出場
「ヒメダカの光による古典的条件づけ」



2024.01.15 更新

令和3年度

- 第65回滋賀県学生科学賞県展 佳作
「淡水カイメンの生育条件を探る
—芽球と成体を用いた実験を通じて—」

- 第75回滋賀県児童生徒科学研究発表大会 読売新聞社賞
「ハッチ率と飼育実験からみる淡水カイメンの生育条件」

令和元年度

- 第63回滋賀県学生科学賞県展 佳作
「琵琶湖の全層循環とプランクトン様相の関係性」 最優秀賞
- 第73回滋賀県児童生徒科学研究発表大会
滋賀県科学教育研究会会長賞
「琵琶湖の全層循環とプランクトン様相の関係性」